

Q&A コーナー

Q. 福岡教区研修会で「教会に明日はあるか」のテーマがありました。青年が少ないなど同じような悩みを小教区で抱えています。アドバイスを。

A. 何事でも困難や悩みに直面したときや行き詰まった時は、まず原点に返ることがいいのではないのでしょうか。スポーツ選手でも行き詰まると、まず基本に戻ります。素振りや何度も繰り返したり、基本の型を最初から見直してみたり。教会でも同じだと思います。「基本」や「最初」が肝心です。

教会も課題や問題は山積みです。何から、どこから手を付けたらいいのかわからなくなっています。いろんなことに関心を持ちたり、携わっている人は、自分が関わっているそのことが最優先課題だと思える人、召命に関心があればそれが最優先でしょうし、組織に関心のある人にとって、は組織作りが最優先になるでしょう。若者のことを心配し

ている人はそれが一番大事な問題になります。社会問題に関心のある人はそのことが最優先になるでしょう。「最優先」がいつばいある。ということではない。これも「最優先」ではないということ。どこから手を付けたらいいのかわからない。このようなときこそ、原点に戻るべきです。何が「原点」かについても異論があるでしょう。わたしが考える「原点」について書いてみます。

理想の教会の姿は新約聖書の使徒言行録に見ることができま。信者たちは皆一つになつて、すべての物を共有にし、財産や持ち物を売り、おののの必要に応じて、皆がそれを分け合った。そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」(2章44節、47節)。

まず、単純に、今の教会は人々から好意を寄せられる集い(共同体)なのかどうか。そうで

あればいいのですが、そうでないとすれば、どこに問題があるのでしょうか。ひよっとしたら、教会自体がお互いに「好意」なんて寄せることのない集いなのかも知れません。ここに「原点」の一つがあると思います。

次のヒント。コリントの教会ではすでに教会内に分裂がありました。聖パウロはコリントの教会への第一の手紙の冒頭から「一致」するように勧めています。「皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心を

一つにし思いを一つにして固く結び合いなさい」と。コリントの信者たちの間では、誰から洗礼を受けたか、ということでのさえ分裂の基になっていたのです。また、知恵があるとか、ないとか：誰が優れているか：ということが議論や差別の基になっていました。パウロは書きます。「兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵ある者が多かつたわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かつたわけ

もありません。ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選びました。また：(1章26節)。信徒と司祭が一致してない：などの問題：。「原点」に照らし合わせてみると、このこと自体とてもおかしなことであることに気づかれます。数ある問題について悩む前に、あなたの思う「原点」はどこにあるのでしょうか。

(行橋教会・山元眞神父)